

インフォメーションディスプレイ Vol.41



電子材料事業部
機能性フィルム技術統括部
統括部長

森元 昌平 様

タツタシステム・エレクトロニクス 株式会社 京都工場 様

京都市の中心地から北西に80km。長田野工業団地内にあるこの工場は、同社大阪工場に継ぐ、電子材料の第2生産拠点として2008年末から稼働しています。工場の着工時からインフォメーションディスプレイの導入を検討。現在、その能力を十分に活用し、高品質・高効率生産に活用いただいています。



所在地：京都府福知山市

来客用のウェルカムボードに、
会議のプレゼンテーションに、
また生産管理にも役立ち、評判は上々です。

導入台数

PN-S525 1台
インタラクティブ
プレゼンシステム 1台
PN-465 2台

タツタシステム・エレクトロニクス京都工場は、FPC用、FFC用電磁波シールドフィルム、導電性ボンディングフィルムを中心とした機能性フィルム専用工場です。今や生活必需品ともいえる携帯電話をはじめ携帯端末用途での需要が多く、海外からもよくお客様が訪れます。そこで、お迎えする正面エントランスに縦型のインフォメーションディスプレイ（52型）を設置。『来客時にお客様の社名、お名前を列記しておく、とても喜ばれます。第一印象からお客様の心をつかめているようです。』とおっしゃいます。また、来客用の会議室ではインタラクティブプレゼンシステム（65型）を設置し、ノートブックパソコンと連動。技術プレゼンを始めさまざまな商談をプロジェクターとの併用で行いますが、手書のできるこのシステムは海外からのお客様の評判も上々です。『「おもしろい。私も操作してもよいですか。」と言われ、文字の書込みやマーキングなど実際にタッチパネルで実感されると、お客様にはちょっとしたサプライズのようです。』とおっしゃいます。さらに、工場内では、生産設備の監視・製造工程の管理・作業の進行管理にと、インフォメーションディスプレイは幅広く活用され、品質管理面からなくてはならない存在となっています。

“お客様に安心していただける工場”を目指し、歴史と伝統の地京都で日本ならではのきめ細かい対応と、安定供給態勢を維持することで確かな信頼を得られています。



正面エントランスでは、商品サンプルとともに52型のインフォメーションディスプレイでお迎えます。



「Welcome」表示とともに、生産ラインなど工場内のようすもご覧いただけます。

導入時の評価ポイント

わかりやすい操作でコンテンツの作成・配信・表示を

- トータルにサポートする「e-Signage（イーサインージ）」

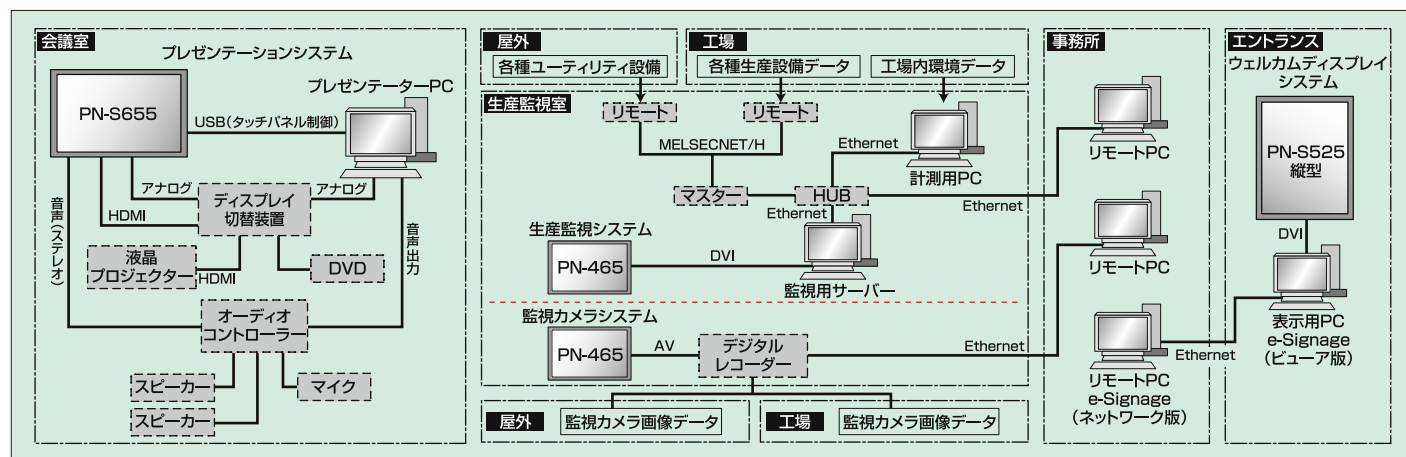
- 用途に適した1台が見つかる幅広いサイズバリエーション

双方向コミュニケーション会議が実現できる

- インタラクティブプレゼンシステムの機能

- 設置場所やコンテンツに合わせ液晶が広げる、多彩なビジュアルソリューション

■ システム概略図

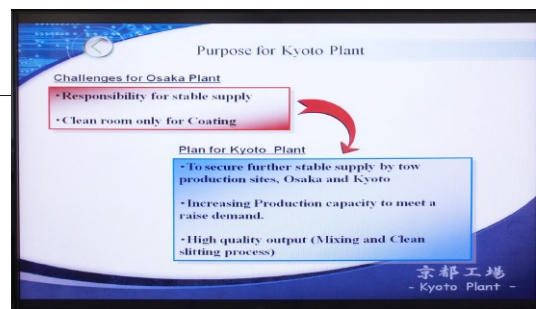


導入の経緯

明るく、見やすく、わかりやすい。
 明るい会議室では、さらにその差は歴然。

京都工場の着工当初より、情報の一元化という観点からインフォメーションディスプレイに興味をお持ちだった森元氏。『プロジェクターは室内を暗くしないと見にくく、プラズマは画面全体が暗い印象で・・・やはり液晶ディスプレイです。ふたつ並べて比べると、その差は歴然。』とおっしゃいます。もともと既設の大阪工場では大型テレビを導入され

ていましたが、パソコン映像の表示が中心になるため、ほどなくインフォメーションディスプレイ (65型) を導入。『その後は、プロジェクター投影用のスクリーンは一度も下ろしたことはありません。』今では会議や商談のスムーズな進行に欠かせないアイテムとなっています。



会議室の65型インフォメーションディスプレイ。鮮明な画像がプレゼンテーションの大きな力に。

導入後の感想

インフォメーションディスプレイの導入で、品質も、生産効率も、省力化もアップ。

当工場が誇る生産監視室では、インフォメーションディスプレイ (46型) 2台がしっかりと製品ラインをサポート。パソコンと連動しており、エラー時、その場に担当社員がいなくても、赤いランプとブザー音で即座に知らせるしくみです。環境に敏感な材料を扱うため、温度、湿度、クリーン度、差圧などを一定に保つことが大前提。『万一、異常が発生した場合でも、いかに速く的確に

対応できるかで品質は左右されます。以前にくらべ、少人数でもはるかにスピーディな動きでフォローできるようになりました。』とおっしゃいます。



常時、FAラインを監視し、異常があればすぐにわかるしくみです。



生産監視室ではパソコン画面と連動。エラー対応が、以前に比べはるかに速くなりました。

今後の展開予定

大阪工場との情報一元化を始め、ますます幅広いシーンで役立ちそうです。

ゆくゆくは本社のある大阪との情報一元化をめざすタツタシステム・エレクトロニクス様。『データの蓄積化と可視化を充実させ、大阪のオフィスで工程の進捗、在庫の状況などをひと目で判断できるようにしたいですね。大阪、京都でテレビ会議

というのも視野に入っています。』とビジョンをお持ちです。また、工場の現場では、『1カ月にわたる「工程表」を横長のインフォメーションディスプレイに映しだして、遠くからでもひと目で把握させたい』、『欠点検査装置としても

う1台導入し、フィルム表面の監視をインフォメーションディスプレイ画面で行いたい』と、将来を見据えて多岐にわたった運用をお考えです。